

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（令和4年度第6回）議事概要
日 時：令和4年10月3日（月）10：30～12：00
場 所：国立がん研究センター 管理棟 第1会議室 ※Webex 使用
出席者：中釜斉理事長、間野博行理事、児玉安司理事、北川雄光理事、北川昌伸理事、
本田麻由美理事、小野高史監事、近藤浩明監事、島田中央病院長、大津東病院長

冒頭 本田麻由美理事より理事就任に伴うご挨拶があった。

I. 前回（令和4年度第5回）議事録の確認

- ・ 前回議事録について了承。
- ・ 前回議事録署名人を間野理事と小野監事に依頼。

II. 報告事項

1. 政府の会議の状況

資料に沿って報告された。

2. 広報実績等

資料に沿って報告された。

3. 令和5年度厚生労働省概算要求について

資料に沿って報告された。

4. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

5. 8月分医業件数等

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・ がんセンターの経営数字の分析は、長年の経営ノウハウが生かされており、分かりやすい。一方で、損益が年度後半にならなければ分からないという点は少し分かりづらい。平均入院単価や病床稼働率といったインディケータの比較は重要と思いつつ、高額医薬品等により、見かけの売上げを上げる一方、収益性がそれほど高くない売上の増加分が大きく見えてしまっている。インディケータ自体を平均入院粗利にすることや、平均入院単価については薬剤費を除いてみる等の工夫が必要ではないか。高額医療費の問題や光熱水費の高騰の問題等、中長期的に継続が予想され、かつインパクトの大きい今後の経営を左右しそうな指標については工夫の余地があると考える。
- できるだけ工夫をし、より分かりやすく経営に生かすことは重要である。検討していきたい。